

お茶の水女子大学の教育がこう変わります

— 伝統を受け継ぐ世界屈指の女子大学 —

お茶の水女子大学では、平成 19 年に全国に先駆け、全学一体型の大学組織「人間文化創成科学研究科」を発足し、附属校園から大学・大学院までを見通した、21 世紀の女性の人材育成に取り組んでいます。充実した教育カリキュラムを進めるために全学教育システム改革推進本部を設置し、全学枠での新しいタイプの AO 入試を導入し、また、「文理融合リベラルアーツ」科目群がスタートしました。

全学一体となった学部教育

1. 文理融合リベラルアーツ

— 自在に (リベラル) つかえる技 (アーツ) —

「文理融合リベラルアーツ」では、文系理系にまたがり現代世界の鍵となる 5 つのテーマ (生命と環境、生活世界の安全保障、色・音・香、ことばと世界、ジェンダー) にそって、講義・討論・発表・実験実習・演習を組み合わせた科目群をつくり、多面的に学び、読み・聞き・書き・語り・作るという 5 つの能力を養成します。こうした、知的発見の積み重ねは、女性がライフサイクルのさまざまな場面を、こころの余裕と充実感に支えられ、楽しんで生きるための英知を与えてくれます。ひとりひとりが生涯にわたって活き活きと生きていくための「お茶大リベラルアーツ」の誕生です。

このような教育プログラムは、ひとつのキャンパスに人文、社会科学、理学の 3 つの系列の教員が集うお茶の水女子大学だからこそ可能なのです。

文理融合リベラルアーツ <http://www.ocha.ac.jp/la/>

2. 科学的思考力と表現力を育成するキャリア教育

(現代 GP 採択「科学的思考力と表現力で築く『私の履歴書』」)

「表現力」と「科学的思考力」の強化が、本キャリア教育の両輪となります。これら 2 つの力を伸ばすために、キャリア関連の新規授業 (「キャリア・プランニング」「サイエンス・ライティング」など) を開講します。さらに、「キャリアレポート放送局」と「キャリアカフェ」が普段の授業の効果を倍増させます。

「キャリアレポート放送局」は、新しいコンセプトのネット環境であり、学生は「私の履歴書コーナー」に、さまざまな授業の成果物であるレポートを格納し、「自分史」を作り上げています。キャリアカフェを図書館 1 階に開き、学生主導で運営し、キャリアセミナーやキャリアメンターとの座談会などを企画・実施します。

これらの取組で、本事業の目標とする学生像、すなわち 1 年次から積極的に自己の未来を考察し、それに向けて行動する学生、そして卒業時には科学的思考力と表現力を持ち、それぞれの分野のリーダーとして活躍できる社会人、の実現を目指します。

キャリアレポート放送局プロジェクト

<http://sec.cf.ocha.ac.jp/cagp/>

3. 出る杭を育てる

～企業で女性が輝くための学生支援～

平成 20 年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム (学生支援 GP)」に本学のプログラム「『出る杭』を育てる～企業で女性が輝くための学生支援～」が採択されました。

本プログラムは、大学入学後の早い時期から女性のライフスタイルを意識させることにより、企業への就職、さらに管理職への昇進をめざす学生への早期支援を行うものです。具体的には、① OG 就活ネットワークと②就職アドバイザーによる企業と学生のマッチングを行い、女性のキャリアパスのモデルを築いていきます。③働く力の証明となる「就活パスポート」を大学が発行し、また④企業とタイアップしてキャリアセミナーを開講して、女性が働き続ける力、さらに管理職に必要な意識と実行力を養成します。これらにより、就活する学生を直接に支援するとともに、将来、指導的な地位で活躍する女性 (「出る杭」) を社会に送り出します。

出る杭を育てる～企業で女性が輝くための学生支援～

<http://www.ocha.ac.jp/topics/h200716.html>

4. 新入生全員を対象とした「ノートパソコン貸与」と情報教育

平成 19 年度から、学部 1 年生全員に 1 年間ノートパソコンを無償貸与しています。その目的は、本学の学生が情報ツールを自ら構築し、使いこなし、「文理融合リベラルアーツ」や各自の専門領域に取り入れる手法を初歩から学ぶためのものです。まず、パソコンを個人のものとして使用すると、どのような責任が生じるか、どのようにしてソフトを取り込んで使用するか、情報をどう管理するかなどの知識と技術を習得します。

貸与パソコン相談室

<http://www.cf.ocha.ac.jp/panda/index.html>

2008 年度の貸与パソコン事業 (参考)

http://www.ocha.ac.jp/topics/pc_2008.html

5. 大学院と連携した学部教育

大学院への進学やそこでの教育と連携した教育プログラムを築きます。とくに理学部では、所属する学科をこえた卒業研究指導の体制をつくり、大学院における学際的領域 (生命情報学など) の教育・研究へと展開できるカリキュラムを導入します。

6. 図書館に新たなコーナーが次々誕生

平成 19 年度 4 月にリベラルアーツコーナー、ラーニング commons を、12 月にはキャリアカフェを図書館に開設しました。図書館のロビーの机や椅子も一新し、図書館が学生のみならず、快適なコミュニケーションスペースとなるように工夫を続けています。

附属図書館 <http://www.lib.ocha.ac.jp/>

本学の先進的教育・研究プロジェクト

お茶の水女子大学は、国立大学法人の発足にあたって、「学ぶ意欲のあるすべての女性の真摯な夢が実現される場」となることを目標に掲げ、下記のようなプログラムを実施しています。高校課程から大学院博士後期課程までを見通した専門的かつ実践的教育、少人数で高密度のまとまりのある大学教育（21世紀型のカレッジ）を目指します。

1. 国際的な研究拠点の形成 <グローバル COE プログラム>

グローバル COE プログラムは、日本の大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、世界最高水準の研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るために、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、国際競争力のある大学づくりを推進することを目的とした事業です。

「格差センシティブな人間発達科学の創成」（平成 19-23 年度） <http://ocha-gaps-gcoe.com/>

2. 大学院教育プログラム <大学院教育改革支援プログラム>

社会の様々な分野で幅広く活躍する高度な人材を育成する大学院博士課程、修士課程を対象として、優れた組織的体系的な教育取組に対して、文部科学省が平成 19 年度よりはじめた教育推進補助金事業です。

本学は、〈魅力ある大学院イニシアティブ〉の支援を受けた「<対話と深化>の次世代女性リーダーの育成」プログラムを発展させた下記のプログラムが採択され、国際的な活発な教育活動を展開しています。

「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」（平成 19-21 年度） <http://www.dc.ocha.ac.jp/dics-jacs/index.htm>

3. 特別教育研究経費

国立大学法人は、基盤となる運営費のほかに、それぞれの大学法人が中期目標に掲げる計画やそれに基づく改革を推進するために「特別教育研究経費」を申請することができます。大学がそれぞれ特色ある教育や研究を進めるための栄養剤といえます。お茶の水女子大学では、17 年度に 2 件、18 年度に 3 件、19 年度は 4 件、20 年度 11 件、21 年度は次の 10 件のプログラムが並行して進行します。

- a. 女性リーダー育成プログラム（教育改革、平成 18-21 年度）
- b. 開発途上国の女子教育・乳幼児保育の支援（連携融合、平成 17-21 年度）
- c. 国際協力人材育成（教育改革、平成 17-21 年度）
- d. 幼・保の発達を見通したカリキュラム開発（教育改革、平成 18-21 年度）
- e. コミュニケーション・システムの開発によるリスク社会への対応（教育改革、平成 18-21 年度）
- f. 文理融合 21 世紀型リベラルアーツの創成（教育改革、平成 19-21 年度）
- g. 女性が進出できる新しい研究分野の開拓（研究推進、平成 19-21 年度）
- h. 子どもの発達・成長過程を見通した食育の実践と教育プログラムの構築（教育改革、平成 19-21 年度）
- i. 「主婦を研究の世界に呼び戻そう」（社会人教育支援事業、平成 21 年度）
- j. 「国際規格の FD 戦略」（平成 20-21 年度）

研究者・教育者支援

1. 挑戦する研究力と組織力を備えた若手育成

科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進プログラム」（平成 19 ～ 23 年度）

先端分野の優れた若手研究者が自立的な環境で、研究力、教育力、組織力を備えて、国際的な研究者として自立するように育成するプログラムです。国際公募により、平成 19 年度に 9 名の特任助教が採用されました。

挑戦する研究力と組織力を備えた若手育成 <http://www.cf.ocha.ac.jp/acpro/index.html>

2. 理科教育支援者養成プログラム（「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」）

科学技術立国として我が国が発展する基盤には、理科教育の充実が必須となっています。特に現在、教室で教員を支援する実験支援員の十分な供給と、実験機材開発等で授業を支援する企業人の質的向上が求められています。本事業では教育委員会、理科学研究協議会、日本理科教育振興協会との連携で、スキル抽出、授業カリキュラム、認定制度を開発し、実施します。

理科教育支援者養成プログラム <http://www.cf.ocha.ac.jp/SEC/rikashien/index.html>

設備・事務組織

大学の教育や研究を下から支える整備の充実や事務組織の改革にも取り組んでいます。

平成 18 年度には、大学本館（講堂および総合研究棟）の増改築が完成し、10 月に落成式を行いました。平成 19 年度には、附属中学校の改築と文教育学部 1 号館の耐震工事が実施され、平成 20 年度からは、理学部 1, 2 号館、附属高校の校舎、附属小学校の体育館の耐震工事が実施されています。食堂（マルシェ）を増築し、ゆつたりとした空間になります。また、附属図書館も、学生のみなさんが共に学び、語り合える場を大きく広げました。

お茶の水女子大学の教育がこう変わります
— 伝統を受け継ぐ世界屈指の女子大学 —